

西諸県地域の普及活動

令和6年6月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) JAこばやしアグリトレーニングセンター第4・5期生修了式の開催

13日にJAこばやし地区本部の本所にて開催され、第4期及び第5期生の修了式が開催されました。

式の中で、JAこばやし地区副本部長から「トレーニングセンターでの1～2年間の研修成果を活かし、就農に向けて頑張ってください」と激励されました。

研修期間中の成績は優秀で、促成きゅうりの収穫実績は、計画以上の収量をあげており、就農後の活躍が大いに期待されます。



【研修生を囲んでの集合写真】

2) 6月期子牛郡品評会が開催

14日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による子牛郡品評会が開催されました。

6月期子牛セリ市に出品された雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た34頭の出品があり、審査の結果、優等賞に6頭、壱等賞に15頭、貳等賞に13頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の箕春彦さん出品の「あやか37」号（耕富士ー美穂国ー福之国）、2席は高原町の内村悦子さん出品の「あきふじひめ」号（二刀流ー耕富士ー美穂国）、3席は高原町の大濱一文さん出品の「らまん」号（羅旺45ー満天白清ー耕富士）が受賞されました。



【優等賞首席 あやか37号】

受賞牛は体積豊かで高さ、幅に優れ、栄養度も良く、バランスのとれた牛であるとの講評でした。

3) 第65回宮崎県畜産共進会へ向けた西諸代表牛決定検査（一次予選）が開催

4日、小林地域家畜市場において、西諸代表牛決定検査（一次予選）が開催されました。

第1類は23頭、第2類は18頭、計41頭の引き出しがありました。各牛の測尺と栄養度判定、審査場に並べて技術員による審査が実施されました。第1類では18頭、第2類では17頭が二次予選に進むこととなりました。牛の選抜は7月5日（金）の二次予選から行われます。



【審査の様子】

第65回宮崎県畜産共進会肉用種種牛の部は10月4日（金）に開催予定です。

4) 小林田植交流会が開催

1 日、小林市真方のほ場で、田植交流会が開催されました。この田植交流会は、JA こばやしと宮崎経済連直販グループミヤベイ直販との合同企画で、生活協同組合コープみやざきの組合員を招いて交流を深め、食育活動と米消費活動を兼ねて開催されました。当日は、24 人が参加し、全員で丁寧に苗を植えました。

普及センターからは、田植の説明指導員として出席し、参加者との交流を深めました。



【田植交流会の様子】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

小林市において、12 日は花きで、13 日は露地野菜栽培で就農を目指している方の就農相談に対応しました。

また、26 日は、えびの市でいちごの研修を実施している 2 名と、更に、親子間で経営を移譲する予定の肉用牛繁殖農家の就農相談に対応しました。

今後は、各々の就農計画の検討を行い、認定新規就農者の認定に向けて支援していきます。

※就農相談対応(面談)等 5 名、5 回

(内訳：小林市：花き 1 名、露地野菜 1 名、えびの市：いちご 2 名、肉用牛繁殖 1 名)

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 水稻奨励品種決定調査試験の田植え実施

10 日、えびの市の農業経営指導士宅の水田で、水稻奨励品種決定調査試験の田植えを行いました。今年度は「南海 189 号、192 号」の 2 系統を試験しています。

今回新たに現地実証する「南海 192 号」は、高温耐性を持ち、ヒノヒカリ並の良食味を持つ品種となっています。

今年度は、小林市でも「南海 189 号」を試験する生産者が増やし、生育調査や、収量調査等を行いながら、現地適応性や食味の観点での検討をしていきます。



【田植えの様子】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) さといも採種ほ場巡回および現地検討

5日、今年度のさといもの種芋生産状況について、JA こばやし、専技、畑作支場と現地確認を行うとともに、種芋生産の問題等について意見交換を行いました。

さといもは、サトイモ疫病の発生により栽培面積が一時的に減少しました。現在は、対策が確立され生産量も少しずつ増え始めていますが、高齢化や労働力不足により、需要に対応できなくなってきました。西諸県地域は県内で唯一の種芋生産地であり、県内からは良質な種芋供給が期待されているため、安定した種芋供給が急務となっています。

今回の現地巡回では、さといもの栽培について専技と畑作支場から細かいコツ等を学びながら、今後の指導に役立てられる有意義な意見交換ができました。今後も関係機関と連携しながら、さといも産地の課題解決に取り組んでいきます。



【採種ほ場での現地検討(堤)】

2) 西諸県サツマイモ基腐病等対策会議の開催

20日、小林総合庁舎において西諸県サツマイモ基腐病等対策会議を開催し、市町、JA及び酒造組合等から18名が出席しました。

会議では、令和6年度活動に関する報告や苗生産に関する意見交換が行われ、普及センターからはかんしょの病虫害対策に関する情報提供を行いました。今後も関係者と連携して、サツマイモ基腐病発生防止に向けた活動を行ってまいります。



【病虫害対策の情報提供】

3) サツマイモ基腐病の発生状況調査の実施

25日に、JA、市町担当者と連携して、管内の定点ほ場におけるサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。今回の調査では、全てのほ場でサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。

今後も、10月までの期間中に、関係機関と連携して調査を実施する計画です。



【基腐病の発生状況調査】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JA えびの市いちご部会の培地試験

昨シーズン県内各地のいちご産地で被害をもたらした炭疽病の発生を抑えるため、今シーズンはJA えびの市いちご部会において培地試験を行っています。試験では、従来の培地との生育や病害の発生状況などの比較を行う予定です。炭疽病の発生要因は複合的ですが、様々な対策を打ち、生産者や関係機関と一体となって問題解決に向け取り組みを行っています。



【苗の状況を確認する様子】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市農業推進対策協議会及び「ぐれーぷ」役員会

17日、普及センターにて小林市農業推進対策協議会役員会に出席し、生産者5名、関係機関2名が参加しました。会議では、7月8～9日での岡山県の視察について検討し、若手にも積極的に参加して欲しいということで若手生産者グループ「ぐれ～ぷ」にも案内を出すことになりました。

19日、小林市内にて若手生産者グループ「ぐれ～ぷ」役員会に出席し、生産者2名、関係機関1名が参加しました。会議では、7月12日の全員園地巡回について検討しました。今回の園地巡回では、尾鈴のぶどう生産者にも声をかけることとしています。

今後も関係機関と連携して支援していきます。

2) JA こばやしマンゴー部会 三役会

26日、JA こばやし三ヶ野山出張所にてJA こばやしマンゴー部会の三役会が開催され、役員3名と関係機関5名が参加しました。今回は、県庁の農業普及技術課からみどり認定についての説明と、普及センターから産地ビジョン見直しについて説明しました。みどり認定は7月中の認定、産地ビジョン見直しは9月完了を目指し、今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【マンゴー部会 三役会】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) JA こばやし花卉部会定例巡回及び定例会が開催

5日に、小林市管内において、生産者5名、関係機関4名が参加し、管内4名の生産者のキクほ場巡回、定例会が開催されました。

8月お盆出荷作型については、概ね順調に生育しています。定例会では、JA から情勢報告、普及センターからハダニ類に対策について説明を行いました。

お盆出荷に遅れないよう、今後の管理に注意していきます。



【JA こばやし花卉部会巡回】

2) 高原町花卉部会の定例巡回及び定例会が開催

27日に、高原町管内において、生産者4名、関係機関3名が参加し、管内3名の生産者のキクほ場巡回と、定例会が開催されました。

8月お盆出荷の作型は、概ね順調に生育しています。

定例会では、JAから情勢報告、普及センターから薬害及び農薬の希釈方法について説明を行いました。

今年度も販売会議や家族研修会等の活動が計画されていますので、引き続き支援していきます。



【高原町花卉部会定例会】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 営農振興協議会野菜部会展示ほ合同調査

7日、小林市野尻町のピーマン展示ほにおいて、総合農業試験場の研究員及び専技と合同調査を行いました。この展示ほでは、線虫抵抗性台木「台ひなた」の有用性について調査しており、昨年に引き続き2年目の調査となります。

今回の調査では、根や果形、葉色などを評価するとともに、生産者への栽培状況の聞き取りを行いました。

現時点でピーマンは順調に生育していますが、今後有害線虫による被害が出てくる可能性があるため、継続して調査を行っていきます。



【調査の様子】

2) JAえびの市きゅうり部会の露地きゅうり現地講習会

14日、JAえびの市きゅうり部会のほ場において、標記講習会が開催され、普及センターからは、①枝の仕立て②今後の天候③天候に合わせた栽培管理の3項目について説明しました。

また、講習会後のほ場できゅうりの生育を生産者と確認しながら意見交換を行い、質疑応答の中で水管理や草勢管理について説明を行いました。

露地きゅうりは6月末から出荷が始まりますので、引き続き関係機関と連携し、収量がとれるよう支援を行っていきます。



【現地講習会の様子】

3) しょうが栽培講習会

近年の気象変動を受け、変貌してゆく環境に対応したしょうがの栽培管理方法を再確認するため、JA こばやしが肥料メーカーと普及センターを招き講習会を開催しました。

気温の上昇は雑草の繁茂や害虫の活発化を招き、降水量の増加は湿度を上昇させ病害の発生を助長します。また、高温で湿潤な気候は肥料の分解や溶出を早め、生育後半の肥切れにもつながります。

肥料メーカーからは、異常気象に対応し、生育後半の肥切れに対応した資材の紹介があり、普及センターからは、気象データを活用して、長期予報に基づく降雨や気温を考慮した栽培管理の注意点等について話をしました。

今後は、平年値にとらわれず、刻々と変化する環境に臨機応変な対応ができる農業技術が必要になると思われます。

4) 果樹カメムシ対策打合せ

5日、普及センターにて関係機関との果樹カメムシ対策打合せを開催し、関係機関5名が参加しました。打合せでは、カメムシ発生状況に関する情報交換と普及センターからの効果的な農薬について解説を行い、今年のカメムシ対策について検討しました。今年のカメムシ発生量が多い予想となっているため、関係機関と連携し、生産者へ注意喚起を行います。



【果樹カメムシ打合せ】

5) 西諸県地区果樹技術員会第2回定例会の開催

26日、JA こばやし地区三ヶ野山出張所にて第2回定例会が開催され、関係機関14名が参加しました。室内会議では、マンゴー経営承継体制や改植についての検討などを行い、旬であるマンゴーの食味調査も行いました。また、県庁の農業普及技術課の職員からみどり認定について説明を行い、現地では選果場見学や園地見学を行いました。園地見学では、3年生の幼木の生育状況を確認しました。

次回の技術員会は7月30日にくり着花調査と合わせて行う予定です。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【果樹技術員会】

6) くり着花調査 (JA えびの市)

27日、JA えびの市担当者と収穫状況を確認するためくり着花調査を行いました。2園地で5樹、10結果母枝の着花数を数え、1結果母枝あたりの平均は平年並みとなりました。生理落果後の着花調査は7月30日の技術員会で行う予定です。



【くり着花調査】

7) 西諸県地区花き技術員会総会及び第2 回定例会を開催

10日に、JA えびの市で西諸県地区花き技術員会の第2回定例会を開催し、関係機関11名が参加しました。

現地検討では、管内のユーカリ及びキイチゴの生育状況について共有しました。室内検討では、管内の花き品目の生育概況やラナンキュラスの球根生産等についての情報共有を行いました。

来月は、県外視察研修を計画していますので、今後も関係機関と連携を高め、地域の課題に取り組んでいきます。



【花き技術員会現地検討】

※この報告書では、JA みやざきこばやし地区本部を「JA こばやし地区」、
JA みやざきえびの市地区本部を「JA えびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。